

1 はじめに

総合学科高校では、1年次の「産業社会と人間」、2・3年次の「総合的な学習の時間」において体系的にキャリア教育に取り組んでいるところである。本校でも、就職や専門学校を希望している系列では2年次で主にインターンシップを、3年次では各種進路講演会、就職模試、面接指導などを行っている。「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」を中心としたキャリア教育の取り組みについては、他の総合学科高校や本校でも発表しているため、今回は農業系の特色ある教育についてまとめることにした。

1 研究のねらい

本校で農業を学ぶためには、基本的に生活文化系列の農業系を選択する必要がある。農業系を選択した生徒は2年次で8単位、3年次で8単位、合計16単位を農業科目の中から選択することができる。主な科目として、農業科学基礎、野菜、草花、植物バイオテクノロジーなどがあるが、専門高校に比べて単位数が少ないため、1つの分野について深く学ぶことは難しい。

そこで、少ない時間ながら、自分が学んだことを振り返り、定着させるためにはどうあればよいか。また、自ら学び挑戦する力を身につけさせるにはいかにすればよいかという視点で以下の内容に取り組んだ。

2 研究・指導の方法

農業系の2年次は、科目「農業科学基礎」でトマトを中心とした野菜栽培を行い、農業の基礎を学ぶ。3年次では科目「課題研究」の中で、各自が選択した野菜や草花について、は種から収穫まで責任を持って管理をさせている。さらに小学校との**連携交流学习**や**出前授業**を行い、自ら説明し実践指導することで知識や技術が定着するよう取り組むこととした。

3 指導上の留意点

指導上の留意点として、指導者になる生徒には自信を持って教えることができるように事前に説明の練習や実習を行う。また、交流を深めるため、年間数回の機会を設けることとした。

4 指導展開（実践）

ここでは、昨年から実施している小学校との連携交流学习について取り上げる。今年度の計画は以下の通りである。

(1) 計 画

- ア 生 徒 奥中山小学校3年生、本校生活文化系列農業系3年次
- イ 指導方法 本校生徒が事前説明や実習の指導者。教師は活動支援。

ウ 教育課程上の位置付け 「課題研究」

エ 実施内容 サツマイモ、ジャガイモ、トウモロコシ、ポップコーンの野菜栽培

オ 場 所 一戸高校奥中山農場

エ 予 定 日	5月下旬	ジャガイモ、トウモロコシ植付け
	6月上旬	サツマイモ、ポップコーン植付け
	7月中下旬	生育観察
	8月下旬	トウモロコシ、ジャガイモ収穫
	9月下旬	サツマイモ、ポップコーン収穫

(2) 実 施

奥中山小学校は、本校農場に近くに位置し、徒歩で移動できる範囲内にある。主な活動内容は次のとおりである。

5月下旬、ジャガイモとサツマイモの定植。



6月上旬、トウモロコシとポップコーンの定植。



7月、生育観察



8月、トウモロコシ、ジャガイモ収穫。



10月上旬、サツマイモの収穫・ポップコーンの乾燥



(3) アンケート

実施毎にアンケートを行い、次の実施に生かした。また本校の生徒にも意識調査を行った。

ア 奥中山小学校3年生

ジャガイモ・サツマイモポップコーンの定植		
	たいへんわかりやすかった	わかりやすかった
説明はどうでしたか	88%	12%
やってみてどうでしたか	85%	15%

【感想】

- ・しんせつにおしえてくれてうれしかった。
- ・たねからうえてみたいです。
- ・ポップコーンができたらたべたいです。

収穫作業のアンケートでは、全員が「たいへん楽しかった。」と答えている。植え付けと異なり、収穫は誰もがうれしく感じるものと思う。

【収穫の感想】

- ・さつまいものしゅうかくのしかたがわかった。
- ・ポップコーンはふつうのとうもろこしよりかたいことがわかった。
- ・さつまいもが土のなかでそだつとはじめてした。
- ・しゅうかくして気づいたこと。やさいをつくるのはすごいたいへんだということを感じました。

イ 一戸高校生

ジャガイモ・サツマイモ・ポップコーンの定植				
	十分にできた	できた	あまりできなかった	できなかった
説明は十分にできたか	57%	14%	14%	14%
実習指導はどうだったか	100%	0%	0%	0%

【高校生の感想・工夫したいこと・改善点】

- ・しっかりと説明すれば理解してくれるのでやってよかった。
- ・元気な小学生だったので、次の授業の時は負けなくらい元気にやりたい。
- ・小学生が楽しそうにやっていたので良かったと思った。
- ・もっと笑顔で話しかければ良かった。
- ・説明の練習をしっかりとっておく必要がある。

5 分析（成果）

人に教えるためには自分が学ばなければならいという意識が芽生え、これまで学んだことを振り返る機会になった。小学生の前で説明や指導を行うことにより自信を持つことができた。小集団の活動によってリーダーとしての役割を果たすことができた。総合学科高校の農業系の理解につながった。

キャリア教育の観点からみると、キャリア教育の新たな方向性として「4領域8能力」から「基礎的・汎用的能力」が示されている。その中のひとつに人間関係形成・社会形成能力がある。この能力は「かかわる力」として評価することができるとされており、連携交流学习（異校種間連携）もそれに当てはまると考える。連携交流学习を通してキャリア教育の充実も図っていきたい。

6 今年度の課題とまとめ

事前の指導が十分ではなかった。特に説明に関しては、自分でまとめさせ原稿にするまで指導する必要があった。日程については年間5回の計画を立てたが、予定外の学校行事や天候に左右され、予定通り実施できなかった。要望のあった収穫したものを食べる機会を設けたい。

評価については、連携交流学习独自の評価シートの活用を考えたい。